

## 十勝連携地域 政策展開方針

～ 売り込む・呼び込む・生きる～  
高速交通ネットワークで結ばれる道東の拠点  
「十勝」



十 勝 地 域

平成25年 3月



帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、  
更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、  
浦幌町

## 目 次

基本的な考え方 ( p 1 )

地域の現状・課題 ( p 4 )

地域のめざす姿 ( p 8 )

主な施策の展開方向 ( p 1 0 )

- ・ たくましい農林水産業の展開
- ・ 創造性あふれる産業の推進
- ・ 地域資源をネットワーク化した観光の振興と交流の促進
- ・ いきいき暮らせる地域社会の形成
- ・ 地球環境に配慮した持続的社会的形成
- ・ 地域の資源を生かした再生可能エネルギー等の普及
- ・ 「減災」を基本とした災害に強い地域づくり
- ・ 生命(いのち)と暮らしを守り我が国の食料供給と産業を支える交通・情報ネットワークの形成

地域重点プロジェクト ( p 1 5 )

- ・ 「食の拠点」とかちプロジェクト  
( 十勝連携地域 )
- ・ 「観光ネットワーク」とかちプロジェクト  
( 十勝連携地域 )
- ・ 「環境フロンティア」とかちプロジェクト  
( 十勝連携地域 )

附属資料 ( p 2 6 )

## 基本的な考え方

### 連携地域別政策展開方針の位置づけなど

(新・北海道総合計画との関係)

- ・ 連携地域別政策展開方針は、平成20年度からスタートした新・北海道総合計画（ほっかいどう未来創造プラン）の推進の手立ての一つとして、地域の多様な主体が共有する「地域づくりの方向」を示すものであり、地域の特性や特色に応じて地域に根ざした政策を展開するため、総合計画に示している6つの連携地域ごとに、市町村や民間の方々などの参画を得て、振興局が主体的に策定するものです。
- ・ 平成24年度をもって終了した前方針（平成20年10月策定）に引き続き、社会経済情勢の変化などを踏まえ、新たに平成25年度からスタートする連携地域別政策展開方針を策定し、地域の多様な主体と連携・協働しながら、推進します。

(北海道地域振興条例における位置付け)

- ・ 連携地域別政策展開方針は、北海道地域振興条例第5条の規定に基づく、広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための「地域計画」として位置付けられるものです。

(政策展開方針と特定分野別計画の連携)

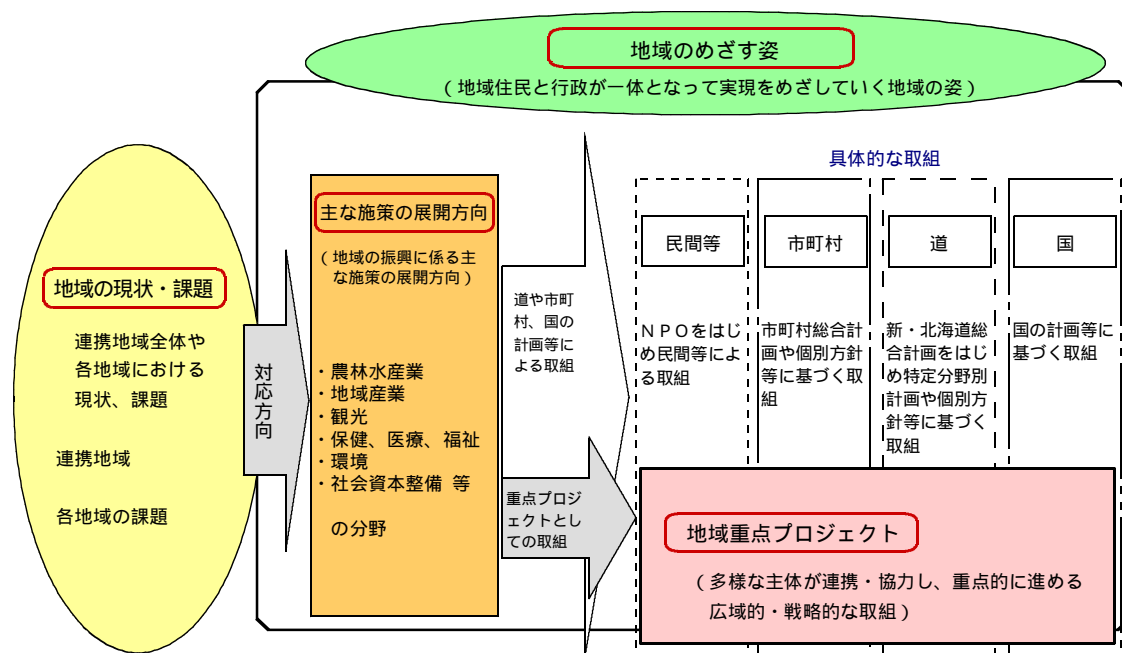
- ・ 地域においては、産業、保健・医療・福祉、環境、教育などの分野ごとの政策を推進する特定分野別計画と政策展開方針とが相まって、地域に根ざした政策を展開します。

### 連携地域別政策展開方針の枠組み

(構成)

地域の現状・課題	連携地域全体や各地域における現状、課題を記述しています。
地域のめざす姿	地域住民と行政が一体となって実現をめざしていく、将来のあるべき地域の姿を記述したものです。時期は、新・北海道総合計画の終期までを想定しています。
主な施策の展開方向	産業、暮らし、社会資本など、地域の振興に係る主な施策展開の方向性を示しています。
地域重点プロジェクト	地域のめざす姿の実現に向けて、多様な主体が連携・協力し、重点的に進める広域的・戦略的な取組を示しています。

(期 間) 平成25年4月から5年程度(新・北海道総合計画の終期まで)



### 連携地域別政策展開方針の推進

(多様な主体が協働した地域づくり)

- ・ 新・北海道総合計画では、個性豊かで活力に満ちた持続可能な地域社会の実現に向け、「地域の多様な主体がともに考え、行動する」ことを基本に、「連携と相互補完」の考え方に立って地域づくりを進めることとしています。
- ・ こうした考え方にに基づき、方針の策定・推進のため、振興局と開発建設部が共同で市町村や地域の関係者の参画を得て、振興局所管区域ごとの「地域づくり連携会議」などを開催し、地域づくりの方向について検討するとともに、地域重点プロジェクトの推進に向け、多様な主体と連携・協働して地域づくりを進めます。

(地域重点プロジェクトの推進)

- ・ 地域重点プロジェクトに関わる各主体は、それぞれの役割に応じて自ら関連する取組を進めるとともに、国、道、市町村等の施策や制度を活用するなどして地域重点プロジェクトを推進します。
- ・ 地域重点プロジェクトについては、毎年度、推進状況等を把握し、必要に応じ取組内容の見直しを行うとともに、新たな地域重点プロジェクトに取り組むこととなった場合などには状況変化に弾力的に対応することとします。

(道における施策等への反映)

- ・ 地域重点プロジェクトの推進などに向け、地域づくり連携会議などにおける意見を踏まえて、本庁各部において対応を要する重点的な事項を振興局長が政策提案として取りまとめ、知事を本部長とし、副知事、本庁各部長、各振興局長等で構成する「北海道地域づくり推進本部」等において、全庁横断的な調整を行い、その実現に努めます。
- ・ 道においては、振興局長からの政策提案について、限られた財源の効果的な活用が図られるよう「選択と集中」の視点に立って、毎年度、重点政策の仕組みとも連携させながら、政策検討や予算編成過程を通じて検討を行い、道の施策や予算等への反映を図るとともに、地域づくり総合交付金や地域政策推進事業、市町村への職員派遣制度など、様々な地域振興施策を効果的に活用し、地域重点プロジェクトを推進します。

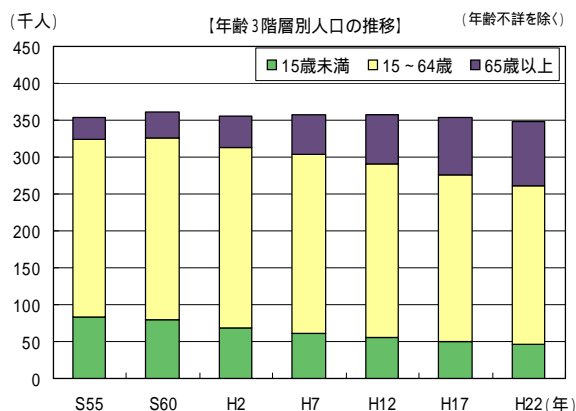
## 地域の現状・課題

### (連携地域)

十勝連携地域は1市16町2村からなり、面積は1万831km<sup>2</sup>(全道の13.0%)です。

人口(H22年国勢調査)は34万9千人(全道の6.3%)で、経年で見ると減少傾向にあり、平成17年から22年まで1.6%減少(全道2.2%減)しています。

高齢者比率(H22年国勢調査)は24.9%(全道24.7%)で、道内では平均的な地域となっています。

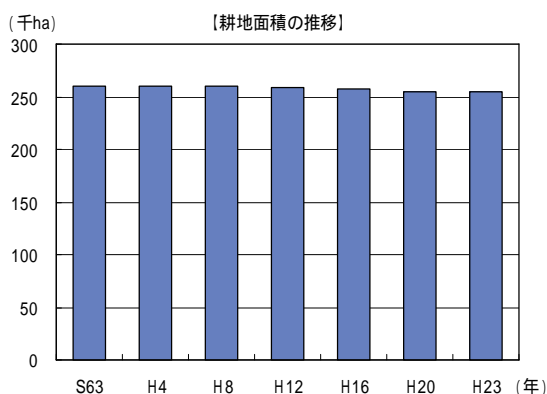


大規模な畑作と酪農を主体とした農業を中心に、カラマツを主体とした林業・木材産業、サケ、シシャモ、スケトウダラなどの漁業、農畜産加工を中心とした製造業、温泉やアウトドア体験、食のイベントなどを生かした観光事業などが展開されています。

農家戸数(H22 農林業センサス)は6千116戸(全道の11.9%)で、平成17年と比べると、9.3%減(全道13.4%減)となっています。

耕地面積(H23作物統計調査)は、25万5千ha(全道の22.1%)となっています。

主要農作物(水稻、小麦、大豆、てん菜)合計での作付面積と収穫量(H23作物統計調査)は7万7千ha(全道の24.2%)と187万4千t(全道の39.6%)となっています。



輸入農畜産物の増加などによる農畜産物価格の低迷や飼料など生産資材価格の高騰が経営を圧迫するなど、厳しい経営環境となっており、農家所得の確保に向け、農業生産力の維持・強化や地域での付加価値づくり及びたい肥の利活用等、資源循環型農業の推進による更なる低コスト化が課題となっています。

また、これまで農作物の品質や生産性の向上等に大きく貢献してきた農地や農業水利施設等の整備については、今後も計画的な更新が課題となっています。

北海道統計書における主要農作物4種「水稻」「小麦」「大豆」「てん菜」。

森林面積(H22 北海道林業統計)は69万2千ha(全道の12.5%)で地域総面積の約6割を占めています。素材生産量(H22 十勝の林産)は72万m<sup>3</sup>で、うち70.4%を占めているカラマツを中心に、北海道の主要な林業地帯となっています。

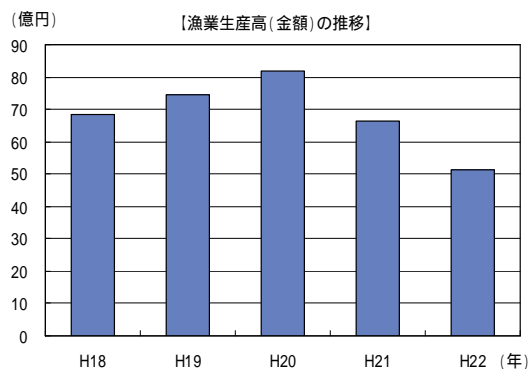
森林認証の取得などによる森林資源の循環利用の推進、地域材による製品の高付加価値化、公共建築物等における木材利用の推進などが課題となっています。

漁業就業者数（H22 国勢調査）は 800 人（全道の 2.2 %）で、平成 17 年と比べると、8.4 %減（全道 11.4 %減）となっています。

漁業生産高（H22 北海道水産現勢）は 51 億円（全道の 2.0 %）で、平成 18 年と比べると、24.9 %減（全道 10.3 %減）となっています。

漁業就業者一人あたりの生産高は平成 22 年で 675 万円と、全道平均（738 万円）に比べ低い水準にあります。

生産高（金額）の魚種構成を見ると、近年（H18 ~ H22 の 5 か年平均）は、サケが約 5 割を占めています。漁業資材価格の高騰や魚価の下落による厳しい経営状況となっている中、毛ガニやシシャモなどの資源管理型漁業やマツカワなどの栽培漁業の推進などによる活力ある水産業の振興と水産物の付加価値向上が課題となっています。

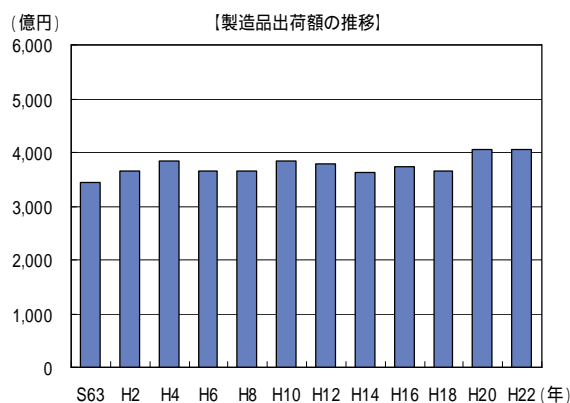


製造業の従業者数を構成比（H22 工業統計調査）でみると、食料品製造等（食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業の計）が全体の 60.6 %を占めています。

製造品出荷額等（H22 工業統計調査）は 4,063 億円（全道の 6.8 %）で、平成 18 年と比べると 10.8 %増（全道 3.5 %増）となっています。

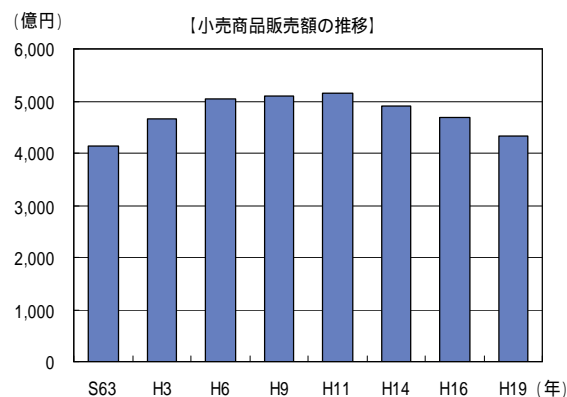
製造業従業者一人あたりの付加価値額（H22 工業統計調査）は 1,049 万円であり、全道平均（917 万円）と比べて高い水準にありますが、ここ数年上昇していないのが現状です。

十勝の製造業は、農産物を利用した食料品製造業や農業機械製造業が主となっており、より一層の新商品の開発や製品の高付加価値化とともに、海外も視野に入れた販路拡大が課題となっています。



小売業商品販売額（H19 商業統計調査）は、4,323 億円（全道の 7.0 %）で、平成 9 年と比べると 15.2 %減（全道 17.8 %減）となっています。

中心市街地は、消費者のライフスタイルの変化やニーズの多様化、大型商業施設の郊外出店により、まちのにぎわいが薄れており、地域商業の活性化が課題となっています。



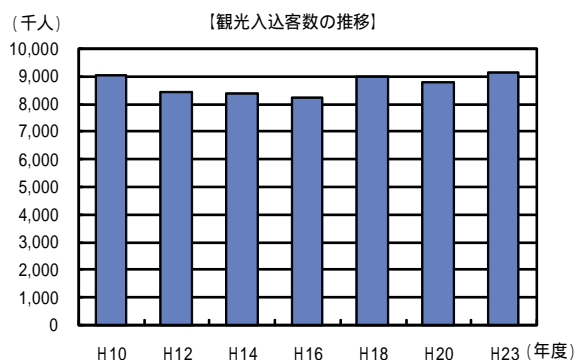


観光入込客数（H23 北海道観光入込客数調査）は、914 万人（全道の 7.5 %）で、平成 18 年度と比べると 2.2 % 増（全道 13.0 % 減）となっています。

観光消費額（H22 北海道観光産業経済効果調査）は、道外客が 109 億円（全道の 2.2 %）で、道内客が 473 億円（全道の 6.5 %）となっています。

外国人宿泊客数（H23 北海道観光入込客数調査）は、年間延べ 9 万 6 千人（全道の 5.8 %）で、平成 18 年度と比べると 19.3 % 減（全道 6.5 % 減）となっています。

広大な田園風景と大雪山系や日高山脈など周辺の雄大な景観に恵まれています。観光資源が点在しており、日帰りや通過型観光が主体で、夏季に集中するなどの課題を抱えており、「食」を含めた豊富な地域資源と高速交通ネットワークを生かした観光の仕組みづくりが求められています。



【医 師 数】

人口 10 万人当たりの医師数（H22 北海道保健統計年報）は 166.7 人で、全道平均 229.0 人を下回っており、郡部における医師や看護師不足など、地域間格差への対応が課題となっています。

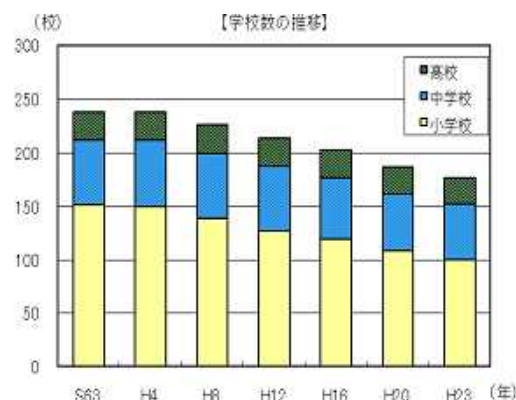
医師数 (H22 年末)	医師数	10 万人 当たり	うち医療施設従事		
			小児科	産科	
北海道合計	12,612	229.0	12,019	618	379
十勝	581	166.7	561	24	19

産婦人科医師数・小児科医師数（H22 医師・歯科医師・薬剤師調査）は、それぞれ 19 人、24 人となっています。

地域災害拠点病院（道内 32 施設）として、JA 北海道厚生連帯広厚生病院が指定されています。

学校数（H23 学校基本調査）は、小学校（101 校）、中学校（52 校）、高等学校（24 校）の合計で 177 校で、平成 20 年に比べ 10 校（5.3 %）減少しています。

地域の高等教育機関には、帯広畜産大学、帯広大谷短期大学があります。



平成 23 年 10 月に道東自動車道（北海道横断自動車道）の夕張 IC ~ 占冠 IC 間が開通したことで、道央と十勝を結ぶ高規格幹線道路網が形成されました。

道路は、帯広市を中心とした広域分散型の当地域において重要な要素となっており、空港・港湾とのアクセス強化や、道央や釧路・根室、オホーツクとのネットワーク形成の観点から、高速交通ネットワークの更なる整備が課題となっています。

とちぎ帯広空港は、年間 51 万人（H22 空港管理状況調書）の利用客があり、道外 1 路線（羽田）が就航しています。平成 23 年 3 月に東京便のダブルトラック化が実現し、産業や観光などの面で大きな役割を果たしています。

十勝港は、港湾取扱貨物量（H22 港湾統計年報）が全道港湾の 0.5 %を占めており、また、首都圏と北海道を結ぶ海路の最短距離に位置し、北海道の基幹産業である農業を支える流通拠点としての役割を担っています。

地域は、2つの国立公園（大雪山・阿寒）、日本一面積の広い国定公園（日高山脈襟裳）に囲まれており、豊かな自然環境に恵まれ、動物や鳥も数多く生息しています。その一方で、野生鳥獣による農林業被害も多く、その防止対策の一つとして、捕獲によるエゾシカの個体数管理を積極的に行っています。

一人一日あたりのごみ排出量（H 22 一般廃棄物処理実態調査）は、886g/人日（全道平均 1,020g/人日）、リサイクル率（同調査）は、26.7 %（全道平均 22.8 %）となっています。

自然豊かで大規模な農業地帯であり、バイオマス資源が豊富にあることから、循環型社会の形成や基幹産業である農業の強化に向け、各地で様々なバイオマス資源の積極的な活用が進められています。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、地震や津波などの大災害への備えの強化が課題になっているとともに、優位性のある食資源や豊富に賦存する再生可能エネルギー資源を活用することにより、食料やエネルギーの生産・供給の拠点としての役割が期待されています。

## 地域のめざす姿

地域住民と行政が一体となって実現をめざしていく、将来のあるべき地域の姿

～売り込む・呼び込む・生きる～  
高速交通ネットワークで結ばれる道東の拠点「十勝」

### 北海道横断自動車道などにより進む道東の拠点化

北海道横断自動車道により十勝が道内各地と高規格幹線道路で結ばれることをはじめ、帯広・広尾自動車道の整備やとかち帯広空港、十勝港の機能拡充などが進められています。札幌圏・釧路圏・北見圏などの道内はもとより、道外・海外とも高速交通ネットワークで結ばれることで、物流や観光等の交流の拡大や、農業を中心とした産業の集積など、道東における拠点化が進んでいます。

### 安全・安心な地域ブランドの確立と食料自給率の向上

安全・安心で高品質といった消費者ニーズにこたえるブランド力の高い農林畜水産物が広く認知されるとともに、生産力がさらに強化され、日本の食料自給率の向上に寄与しています。

### 豊富な地域資源などを生かした産業が展開

大学や試験研究機関・企業などの産学官金連携により、豊富な地域資源や優秀な人材、蓄積された技術・研究機能などを活用して、研究機関を核とした機能性食品素材などの技術開発による新事業の創出や商品開発が進められ、食品工業の高付加価値化が図られるとともに、ものづくり産業など経済波及効果の高い企業立地が進展しています。

### 国際競争力の強化

強い国際競争力を持った地場製品の生産・開発により、東アジア地域を中心に農畜水産物や加工食品の輸出の促進が図られています。

### 豊かな食と自然を生かした滞在周遊型観光地づくりが進展

地元の新鮮な農畜水産物を使った食の提供、恵まれた自然や体験施設、温泉などを生かした各種観光資源のネットワーク化、高速交通ネットワークの更なる整備が進むことにより、観光客がリピーターとして再び訪れる、滞在周遊型観光地が形成されています。

### 住民参加型エコ活動やバイオマスをはじめとする再生可能エネルギー等の利活用が進展

環境に対する住民の積極的な関わりにより、地域が一体となって環境負荷低減に向けて取り組んでいるほか、豊富に賦存する資源を生かし、バイオガスをはじめ、木質ペレットや太陽光発電などの再生可能エネルギー等の利活用が進められ、それに関連した新産業の創出が図られています。

### 誰もが安心していきいきと暮らせる地域づくりが着実に進展

保健・医療・福祉体制が整備され、高齢者や障がい者を含めて誰もが健康で安心して暮らすことができるとともに、社会全体で子育てをサポートする環境づくりが進んでいます。

また、スピードスケートを中心とした冬季スポーツの拠点としての役割を担っています。

地震や津波・火山などの自然災害による被害を防止・軽減するため、総合的な防災体制の整備など危機管理体制が強化されるとともに、高い食料生産力をはじめ、バイオマスや太陽光などの再生可能エネルギー資源を生かした、食料やエネルギーの生産・供給拠点の形成が進んでいます。

## 主な施策の展開方向

今後5年程度における主な施策展開の基本方向

### たくましい農林水産業の展開

(基幹産業である農業の充実・強化)

- ・ 担い手の減少や高齢化、食の安全・安心に対する消費者の関心の高まり、さらには国際貿易交渉の進展や国の新たな農政改革、世界的な食料事情の変化など、農業を取り巻く情勢の変化に対応するため、生産基盤の整備や、新規就農者も含めた担い手への支援の集中などによる経営体質の強化、環境・農村景観の保全など農業・農村が安定的に発展するための取組を推進します。

(食品等の安全・安心の確保)

- ・ 安全・安心で良質な食料を消費者の理解が得られる価格で安定的に生産・提供していけるよう、生産性や品質の向上を可能にする新たな技術の開発・普及に加え、環境への負荷の少ないクリーン農業や有機農業の推進、家畜ふん尿や廃プラスチックの適正処理など環境と調和した持続可能な農業生産活動を推進します。

(農畜産物の付加価値向上)

- ・ 地域の特色ある資源を生かした農産加工や直接販売、ファームイン、ファームレストランなどアグリビジネスや教育旅行の受入れなどグリーン・ツーリズムの取組を進めるとともに、食品加工業・外食産業などの関連産業との連携強化による農畜産物の付加価値の向上や雪氷冷熱エネルギーの利用などによる安定供給に向けた長期保存、個性豊かなブランドづくりを促進し、商品開発や地産地消、販路拡大を通して国内外の競争力を強化します。

(林業・木材産業の振興)

- ・ 十勝の代表樹種であるカラマツを中心とした林業、木材産業の振興を図るため、森林認証の取得などにより森林資源の循環利用を進め、多面的機能を発揮する森林等の保全に努めます。また、林業の担い手の育成・確保のための取組を支援するとともに、建築用材などの付加価値の高い製品へシフトするための普及啓発や生産施設の整備を図ります。

(活力ある水産業の振興と水産物の付加価値向上)

- ・ 活力ある水産業・漁村の振興を図るため、海域特性に適したマツカワ(カレイ)などの魚種の栽培漁業を推進するとともに、資源状況に見合った漁獲量の設定など資源管理型漁業を確立するほか、担い手育成のための取組を支援します。
- ・ 鮮度保持対策等による付加価値向上を図った上で、インターネット等を使った情報

発信など需要拡大の取組を推進するとともに、魚食普及の取組などを通じた消費の拡大を促進します。

(エゾシカ対策の総合的な推進)

- ・ エゾシカによる農林業被害を防止するため、市町村による計画的な捕獲を一層推進するとともに、シカ肉の資源としての有効活用の推進を図ります。

## 創造性あふれる産業の推進

(地域農畜水産物を活用した食品工業の振興と食クラスターの形成)

- ・ 地域の試験研究機関を核として技術開発や商品開発を進めるとともに、海外も視野に入れた販路拡大に取り組み、地域の豊富な農畜水産物を活用した食品工業を振興します。
- ・ 産学官金の共同研究を推進し、地域の農畜水産物を活用した機能性食品素材や長期保存が可能な加工食品の開発などを進め、新事業を創出します。
- ・ 市町村や支援機関などとの連携のもと、地域農畜水産物の付加価値向上につながる食関連企業の立地促進や、生産者と食品加工業者等の協働による新商品開発を促進するなど、食クラスターの取組を促進します。

(ものづくり産業の立地促進)

- ・ 高速交通ネットワークや十勝に集積する試験研究機能などを生かし、経済波及効果の高い機械・金属関連産業や航空宇宙関連産業など、幅広いものづくり産業の企業立地を促進します。

(建設業の経営力強化などの促進)

- ・ 建設業者が地域の社会資本整備はもとより、災害時対応や除雪といった地域の安全・安心の役割などを担いながら、持続・成長できるよう、「北海道建設産業支援プラン2013」に基づき、「経営力の強化」や「人づくりの強化」などの施策の推進や、「地域建設業サポートセンター」などによる各種支援施策の情報発信や相談対応等の支援を進めます。

## 地域資源をネットワーク化した観光の振興と交流の促進

(「食」をはじめとする豊かな観光資源のネットワーク化)

- ・ 各業界団体が連携し、豊富な農畜水産物を生かした多彩な「食」の提供を核として、北海道遺産やアウトドア・農業体験施設、温泉、庭園などの観光資源をネットワーク化するとともに、観光モデルルートの磨き上げ・PRなどに取り組みます。

(観光情報の発信とホスピタリティ)

- ・ 東アジアなどの外国人観光客やドライバーなどが快適に周遊できるよう、多言語による案内看板やパンフレットの充実、観光ガイドの配置、さらには、地域住民への国際化に向けた意識啓発などによりホスピタリティを高めるとともに、国内外でのプロモーション活動やエージェントへの売り込みを展開し、十勝の魅力を発信します。

(移住などの地域交流や道内他圏域との広域観光の促進に向けた受入体制の整備)

- ・ 移住や二地域居住に対する志向が高まる中、十勝での暮らしや気候、自然などに関する情報の発信や体験居住などの受入体制の整備を促進します。
- ・ 平成27年度末までに予定されている北海道新幹線の新青森・新函館(仮称)間の開業効果や道内各地の観光資源等を活用するなど、他圏域と連携した広域観光を推進します。

## いきいき暮らせる地域社会の形成

(安心していきいき暮らせる地域づくり)

- ・ 地域の中核となり高度な医療を担う地方・地域センター病院の機能の充実を図るとともに、医療機関相互の機能分担を促進するほか、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムを構築します。
- ・ 地域全体で子育てを支援する環境の充実やライフステージにあった健康づくり運動、地域活動を支える人材育成などにより、少子高齢化や人口減少に対応したコミュニティづくり、地域づくりを推進します。
- ・ 高齢者や障がい者などが安心して暮らせるよう、相談支援体制の確保やネットワークの構築などの環境整備を推進します。
- ・ 障がい者の雇用の場の確保など、自立や社会参加に向けた取組を促進します。
- ・ 高齢者や女性など社会を支える多様な働き手への就業支援を推進します。
- ・ スピードスケートを中心とした冬季スポーツの拠点づくりを推進します。

(集落対策の促進)

- ・ 民間企業やNPO法人、地域住民等との協働のもと、市町村が主体となった集落の維持や住民生活の確保等の集落対策の取組を促進します。

(中心市街地の活性化)

- ・ まちづくりと連動した魅力ある商店街づくりなど、中心市街地や地域商業の活性化に向けた地域の自主的な取組を促進します。

## 地球環境に配慮した持続的社会的形成

(地域から取り組む地球環境の保全)

- ・ 地球温暖化などの環境問題が世界規模で顕在化していることから、環境に負荷をかけないライフスタイルを地域に定着させるための住民参加型の環境保全活動を推進します。

(省エネルギーの取組の推進)

- ・ 住宅・建築物における高断熱化や、省エネ設備等の導入を促進するなど、CO<sub>2</sub>排出量削減や節電などに資する省エネルギーの取組を一層促進します。

(環境に配慮した経済活動の推進)

- ・ 環境と経済が両立する社会の実現を図るため、循環型農業の推進や、バイオマスの利活用による新たな産業の創出などの取組を推進します。

(多面的機能を発揮する森林等の保全)

- ・ 森林が持つ水源涵養、山地災害防止、温暖化防止などの機能が適切に発揮できるよう、森林所有者や関係機関、団体などの連携による森林づくりを推進します。

地域の資源を生かした再生可能エネルギー等の普及

(地域の資源を生かした再生可能エネルギー等の普及)

- ・ 東日本大震災以降のエネルギー政策をめぐる情勢変化などを踏まえ、家畜ふん尿や太陽光などの地域に賦存する資源を活用し、再生可能エネルギーの導入促進を図ります。
- ・ 「エネルギーの地産地消」による地域の活性化を目指す市町村等との連携を進め、地域における自然エネルギー等の普及促進を図ります。
- ・ 木質バイオマスエネルギーの一層の利用を図るため、木質ペレットなどの利用を推進し、需要拡大に向けた普及啓発を図ります。
- ・ 十勝沖にも相当量賦存していると推測されているメタンハイドレートの将来的な実用化に向け、地域の気運醸成のための普及啓発の取組を進めます。

「減災」を基本とした災害に強い地域づくり

(「減災」を基本とした災害に強い地域づくり)

- ・ 平成24年7月に改訂された新たな津波浸水予測図により、津波ハザードマップの作成と津波避難計画の策定を早期に進めます。
- ・ 避難路や緊急輸送道路の整備促進、危険箇所の防災対策、洪水や土砂災害に備えた安全性の高い災害防止施設等の治水・治山事業の推進など、効果的な防災基盤の整備を図るとともに、学校など公共建築物等の耐震化を促進します。
- ・ 津波災害に減災効果があった海岸防災林の改良計画策定に向け、調査・検討を進めます。



- ・ 消防団や自主防災組織の育成・強化を図るとともに、実践的な防災訓練を実施するなど、地域防災力を強化します。
- ・ 高齢者や障がい者などを災害から守るため、災害時要援護者対策を推進します。

## 生命（いのち）と暮らしを守り我が国の食料供給と産業を支える交通・情報ネットワークの形成

### （交通ネットワークの整備促進）

- ・ 速やかな災害時の避難や救急搬送等を可能とするほか、企業立地の促進や交流人口の増加に資するよう、地域の産業や暮らしを支える高速交通ネットワークの整備促進を図ります。
- ・ 穀物等の移出入の拠点の一つであり、我が国の食料供給と産業を支える十勝港を中心とした物流の一層の効率化を図るため、高規格道路の整備促進や港湾機能の充実を図ります。
- ・ 国内外からの観光客、ビジネス客の利便性向上を図るため、とかち帯広空港の機能拡充を図ります。
- ・ 地域における日常生活を支えるバスなどの地域交通を確保します。

### （情報ネットワークの形成）

- ・ ブロードバンドの世帯普及率の拡大やテレビの難視聴世帯の解消など、情報格差のない地域づくりを推進します。

## 地域重点プロジェクト

プロジェクト名	推進エリア	頁
1 「食の拠点」とかちプロジェクト	十勝連携地域	16
2 「観光ネットワーク」とかちプロジェクト	十勝連携地域	20
3 「環境フロンティア」とかちプロジェクト	十勝連携地域	23

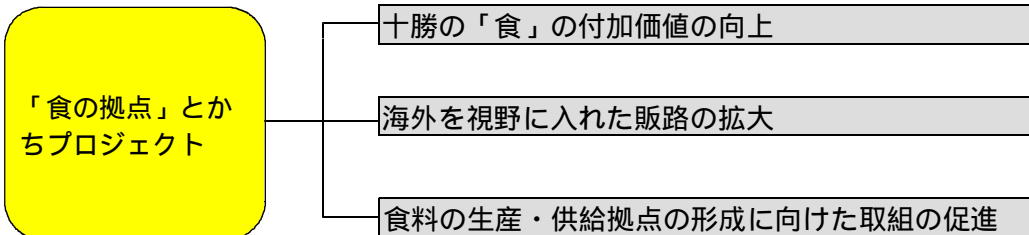
## 目的

十勝の農業・水産業は、安全・安心で良質な食の安定供給などを通して国民の暮らしを支えるとともに、食品加工や観光などの幅広い産業と結び付き、地域の基幹産業として極めて重要な役割を担っています。

しかし、今後、WTO（世界貿易機関）やEPA（経済連携協定）における国際交渉の進展をはじめ、世界的にFTA（自由貿易協定）やEPAなどの取組が進められている中で、農畜水産物等の適切な国境措置を確保しながら、地域経済の持続的な発展を図っていくためには、農畜水産物や加工食品の付加価値を高めていくことが極めて重要な課題となっています。

こうしたことから、農業産出額が全道の4分の1を占めるなど、北海道はもとより我が国における食料供給基地としての地位を確立している十勝の優位性を生かし、「食」の安全・安心に対する消費者のニーズにこたえた高品質な農畜水産物の生産を基本としながら、日本で唯一「食」の国際戦略総合特区である「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」の指定という絶好の機会を生かし、農業者と加工・流通業者等の連携による生産から加工、販売までの一貫した取組を促進することにより、農畜産物の付加価値を向上させ、産学官金連携による機能性食品素材の開発を進めるとともに、鮮度保持対策や魚食普及の取組などを通じた水産物の消費の拡大を促進し、個性豊かで自立した十勝農業・水産業及び農村・漁村の発展をめざします。更に、海外も視野に入れた販路拡大を進めることにより、国際競争に打ち克つ、強いブランド力をもった食産業を構築していきます。

## 施策展開



《 地域で考える ” 目標 ” 》

クリーン農業に取り組む生産集団数（YES!clean）	
[ 現状値 H23 ]	[ 目標値 H29 ]
33 集団	40 集団
地域の認証・登録制度の認証・登録品目数	
[ 現状値 H23 ]	[ 目標値 H29 ]
174 品目	190 品目
グリーンツーリズム関連施設数	
[ 現状値 H23 ]	[ 目標値 H29 ]
256 施設	350 施設
商談（マッチング）件数	
[ 現状値 H23 ]	[ 目標値 H29 ]
1,041 件	1,150 件

プロジェクトに取り組む上で、関わる方々の共通の目標となるよう地域で設定したものです。



主な取組		実施主体
十勝の「食」の付加価値の向上	<p>安全・安心な食の提供に向けた取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業の普及促進</li> <li>・家畜排泄物の利活用や自給飼料の増産など、十勝らしい耕畜連携の推進</li> <li>・クリーン農業技術導入の認証制度である「YES! clean表示制度」の登録生産集団数の拡大</li> <li>・農業生産工程管理手法（GAP）の導入定着</li> <li>・環境負荷低減のための先進的営農活動の推進</li> <li>・食品加工業者によるHACCP等の認証取得の促進</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>「十勝」のブランド力確立に向けた取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産流通の実態把握と食品産業や観光産業の連携による「十勝」のブランド力強化</li> <li>・商標制度や道産食品独自認証制度（きらりっぷ）等の活用による農畜水産物のブランド化</li> <li>・日本めん用、パン・中華めん用など各用途の需要動向に即した小麦品種の作付推進</li> <li>・ナチュラルチーズやパンなどの「十勝ブランド認証制度」の活用と拡大による商品のプレミアム感の構築</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>付加価値を生み出す仕組みの構築の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特産の農畜産物を活用した加工品づくりへの助成など農業者と加工・流通業者等との連携による取組</li> <li>・産学官金連携による新素材・食品の開発、事業化に向けた取組</li> <li>・「食」の付加価値向上のための新技術の研究開発と「食」に関する産業を支える人材の育成</li> <li>・生産者と食品加工業者等の協働による新商品開発など食クラスターの取組</li> <li>・農林水産業界と商工業界の連携による生産から加工・流通までの一貫した取組の推進</li> <li>・鮮度保持対策等による十勝産水産物の付加価値向上</li> <li>・魚食普及の取組などを通じた消費の拡大の推進</li> </ul>	道、市町村、民間、試験研究機関、大学
	<p>食関連企業の立地促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた立地環境のPR</li> </ul>	道、市町村、民間

	主な取組	実施主体
海外を視野に入れた 販路の拡大	<p>地域の農畜水産物の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナショップや物産展を利用したPRの実施</li> <li>・地産地消の「食」にこだわった飲食店・宿泊施設等の登録と情報発信</li> <li>・北の屋台や農畜水産物直売所など生産者の顔が見える場の活用、拡大</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>十勝の農畜水産物の消費拡大に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子商店街での農畜水産物の直売などによる販路拡大</li> <li>・「地産地消」や「食育」、十勝に合った「スローフード運動」などを総合的に推進する愛食運動の積極的な展開</li> <li>・北のめぐみ愛食レストラン、麦チェンサポーター店等を活用した道内外からの観光客等への農畜水産物・加工品のPR及び販路拡大</li> <li>・首都圏や東アジア地域などにおける商談会や展示会の開催・参加</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>食をテーマにした誘客の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・ツーリズムの受け入れに向けた十勝ならではの農林水産業・農山漁村の魅力を生かした教育旅行や体験型交流の受入体制の整備促進</li> <li>・グリーン・ツーリズムの着地型資源情報発信に係る機能向上の取組</li> <li>・食を核とした観光モデルルートの磨き上げ・PRなどの総合的な食ツーリズムの推進</li> </ul>	道、市町村、民間
食料の生産・供給拠点の形成に向けた取組の促進	<p>農畜水産物や加工食品などの安定的な生産・貯蔵・供給体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時・災害時を問わない国内への食料安定供給のための生産供給体制の確立</li> <li>・農産物の保存に向けた雪氷冷熱など再生可能エネルギーの活用促進</li> <li>・地域の農畜水産物を活用した非常用備蓄食糧など長期保存が可能な加工食品の生産拡大</li> </ul>	道、市町村、民間

#### 関連する主な基盤整備

農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備

- ・畑・草地の整備促進
- ・農業用施設の整備促進
- ・農業用施設の機能を回復するための施設整備促進

#### 高規格幹線道路の整備

- ・北海道横断自動車道の整備促進
- ・帯広・広尾自動車道の整備促進

#### 物流ネットワーク形成のための道路網の整備

- ・高規格幹線道路と一体となった道路整備や物流拠点、ＩＣへのアクセス道路の整備促進

#### 国際海上物流拠点の整備

- ・十勝港の整備促進

#### 水産物供給基地としての漁港づくり

- ・漁港施設の整備促進

#### 水産資源の増大等に向けた施設づくり

- ・魚礁施設・増殖施設の整備促進

#### 洪水から農地を守るための根幹的な治水施設の整備

- ・治水施設の整備促進

## 「観光ネットワーク」とかちプロジェクト

推進エリア  
十勝連携地域

連携地域を越えた広域的な取組のエリア  
日高、上川、オホーツク、釧路、根室地域  
関係する取組に「\*」を付しています

### 目的

十勝圏は、大雪山系や日高山脈、阿寒国立公園といった雄大な山岳景観をはじめ、広大な田園風景や神秘的な湖沼、清流、さらには個性豊かな温泉など、美しく豊かな大自然に恵まれ、最も北海道らしい景観を有する地域です。

十勝圏には、毎年約900万人の観光客が訪れていますが、その多くが「日帰り型」「通過型」「夏期集中型」の観光スタイルとなっていることから、平成23年度に、とかち帯広空港と羽田空港を結ぶ航路がダブルトラック化されたことや、道央圏と十勝が北海道横断自動車道により直結した効果などが最大限に発揮されるよう、十勝の魅力である「食」を生きし、広域分散型といわれる観光資源のネットワーク化を進めることで、四季を通じて十勝でくつろいでいただける観光の仕組み作りが求められています。

このため、旅行形態の多様化や旅行者のニーズに対応できるよう、農林水産業と観光産業との連携を図り、食材王国十勝の安全・安心な「食」を核として、地域に点在する自然景観・北海道遺産・ファームインなどを利用したグリーン・ツーリズム・温泉・アウトドアフィールドといった観光資源を組み合わせた滞在周遊型観光地づくりを進めるとともに、ホスピタリティの向上を進めながら、十勝の魅力を積極的に売り込んでいきます。

### 施策展開

「観光ネットワーク」とかちプロジェクト

食材王国十勝の「食」を生かした観光資源のネットワーク化

十勝の風土や美しい景観・人とのふれあいを大切にした観光の充実

高速交通ネットワークを生かした観光客誘致

#### 《 地域で考える ” 目標 ” 》

観光入込客数（延べ人数）

〔現状値 H23〕      〔目標値 H29〕

914万人              960万人

北のめぐみ愛食レストラン認定数

〔現状値 H23〕      〔目標値 H29〕

39店                  60店

観光客平均宿泊数（泊）

〔現状値 H23〕      〔目標値 H29〕

1.27泊                1.40泊

プロジェクトに取り組む上で、関わる方々の共通の目標となるよう地域で設定したものです。



	主な取組	実施主体
食材王国十勝の「食」を生かした観光資源のネットワーク化	十勝らしい「食」メニューの開発、磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆類、小麦、野菜、チーズ、シシャモ、秋鮭など豊富な食材を活用した新たな地産地消メニューの開発</li> <li>・豚丼、そば、焼肉、お菓子など十勝らしい既存メニューの磨き上げ</li> <li>・食を核とした観光モデルルートの磨き上げ・PRなどの総合的な食ツーリズムの推進</li> <li>・農・水産業団体、商工団体等の連携によるイベントの開催</li> </ul>	道、市町村、民間
	地産地消を進める飲食店や直売所の拡大と観光資源化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の「食」にこだわった飲食店・宿泊施設等の拡大</li> <li>・北の屋台や農畜水産物直売所など生産者の顔が見える場の拡大</li> <li>・お菓子工場、チーズ工房、農産物集出荷施設など生産現場や食品産業施設等の観光資源化</li> </ul>	道、市町村、民間
十勝の風土や美しい景観・人とのふれあいを大切にしたい観光の充実	十勝の魅力あふれる観光メニューの連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ばんえい競馬やモール温泉など北海道遺産との連携</li> <li>・十勝の農業や自然を生かした農業体験、牧場体験のできるグリーン・ツーリズムの推進</li> <li>・南十勝夢街道、十勝平野山麓、トカプチ雄大空間といったシーニックバイウエイルートの相互連携</li> <li>・大雪山国立公園内の然別湖などのアウトドアフィールドや日本一寒い町陸別町のしばれフェスティバルなど十勝の自然環境・気象条件を生かした特色あるイベントの充実とツアー化</li> <li>・スギ花粉疎開ツアーやガン検診を組み込んだツアーなど健康を意識したツアーの充実</li> <li>・パークゴルフやゲートボール、ミニバレーなど十勝発祥のスポーツを生かしたイベントの充実</li> </ul>	道、市町村、民間
	ホスピタリティの向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティ研修会などの開催</li> <li>・十勝の観光文化検定試験などを活用したガイドの育成</li> </ul>	道、市町村、民間



主な取組		実施主体
高速交通ネットワークを生かした観光客誘致	<p>十勝を訪れ周遊するための情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食関連業界の連携によるマップ等の作成</li> <li>・お菓子や道の駅、サービスエリアなどを活用したスタンプラリーの実施</li> <li>・観光施設などの案内板や多彩な観光メニューを紹介する情報提供機能の充実</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>十勝の魅力あふれる観光のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光商品化に向けた旅行代理店等への売り込み、招聘事業等の実施</li> <li>・特色ある体験型観光メニューを生かした修学旅行などの誘致</li> </ul>	道、市町村、民間
	<p>他圏域との広域観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガーデン街道」など上川地域と連携した取組のほか、日高地域の馬文化や観光資源などと空港利用を結びつけた取組、東北道の雄大な自然景観などを生かした取組など、民間団体と連携した広域観光の推進 *</li> </ul>	道、市町村、民間

#### 関連する主な基盤整備

##### 高規格幹線道路の整備

- ・北海道横断自動車道の整備促進
- ・帯広・広尾自動車道の整備促進

##### 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備

- ・観光拠点へのアクセス道路の整備促進

##### 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備

- ・農業用施設の整備促進
- ・畑・草地の整備促進
- ・農業用施設の機能を回復するための施設整備促進

##### 水産物供給基地としての漁港づくり

- ・漁港施設の整備促進

##### 水産資源の増大等に向けた施設づくり

- ・魚礁施設・増殖施設の整備促進

##### 洪水から農地を守るための根幹的な治水施設の整備

- ・治水施設の整備促進

##### 自然豊かな水辺環境の整備・保全

- ・環境に配慮した河川・砂防などの整備促進

## 目的

十勝圏は、多様な地形や四季の変化に富んだ豊かな大自然を有し、こうした自然環境は、私たちの生活に安らぎと潤いを与え、十勝の発展の基礎ともなっています。

しかし、大量生産・大量消費・大量廃棄型という社会経済活動の拡大や生活様式の定着を背景に、身近な自然環境の悪化や生態系への影響、地球温暖化など、地域レベルから地球規模にわたる様々な環境問題が顕在化しており、豊かな自然環境を将来にわたり受け繋いでいくことが極めて重大な課題としてクローズアップされています。

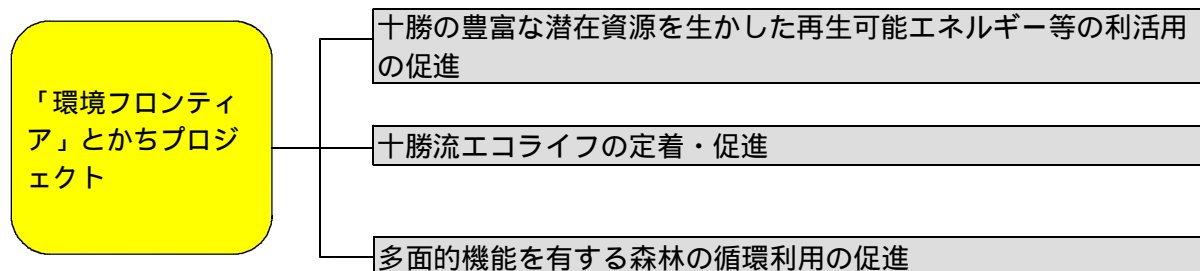
今日の環境問題は、私たちの日常生活や事業活動に起因するものが多く、その解決に当たっては、私たち一人一人がこれまでのライフスタイルや社会経済活動を見直していくことが求められています。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災などを契機として、エネルギー問題への国民の関心が高まっています。

十勝は、我が国有数の農業地帯・酪農地帯・林業地帯であり、バイオマス資源が豊富に存在し事業化の可能性や優位性が高い地域です。加えて長い日照時間など十勝の地域特性を生かし、これら潜在資源の利活用を促進するとともに、産学官金連携などにより、新たな産業の創出を促進していきます。

また、温暖化など地球規模での環境問題の解決に向け、住民が容易に参加することができる身近なエコ活動を促進することで、住民の主体的な環境保全活動を地域に定着させるとともに、二酸化炭素吸収源となる森林づくりを推進します。

## 施策展開



### 《 地域で考える ”目標” 》

オフセット・クレジット発行見込量によるCO2排出削減量  
及びCO2吸収削減量

[ 現状値 H23 ]      [ 目標値 H29 ]

13,650 t-CO<sub>2</sub>    19,110 t-CO<sub>2</sub>

エネルギー地産地消に取り組む管内市町村の  
新エネルギーの導入状況

[ 現状値 H23 ]      [ 目標値 H29 ]

142,000 kl      156,000 kl

プロジェクトに取り組む上で、関わる方々の  
共通の目標となるよう地域で設定したものです。



主な取組		実施主体
十勝の豊富な潜在資源を生かした再生可能エネルギー等の利活用の促進	<p>地域に豊富に存在するバイオマス資源の利活用とCO2排出削減に向けた取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官金連携によるバイオエタノール製造の事業化に向けた取組の促進</li> <li>・バイオエタノール混合燃料による実証走行試験の実施</li> <li>・農産物収穫残渣など未活用資源の肥料化・燃料化など有効活用の促進</li> <li>・廃食用油を活用したBDFや農業と連携したBDF普及の取組促進</li> <li>・木質バイオマスを活用したストーブ・ボイラーの普及促進</li> <li>・バイオマス資源のマテリアル利用の促進</li> <li>・環境に係る問題解決のための新技術の研究開発と環境に関する事業を支える人材の育成</li> <li>・北方型住宅など高断熱住宅の普及促進</li> </ul>	道、市町村、民間、大学
	<p>潜在資源を生かした再生可能エネルギーの普及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜ふん尿の有効活用に向けたバイオガスプラントの整備促進</li> <li>・太陽光発電や小水力発電などの利活用促進</li> </ul>	道、市町村
十勝流エコライフの定着・促進	<p>もっとエコなとかちづくりの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における環境保全意識の高い個人及び企業の取組を公表することによる環境保全活動の普及促進</li> <li>・エコドライブの普及促進</li> <li>・地域主体で行う環境保全活動の対外的な発信</li> <li>・環境にやさしい自転車の利用によるエコサイクリングツアーの提案</li> <li>・地域の一斉清掃の取組促進</li> <li>・資源リサイクルの推進</li> </ul>	国、道、市町村、民間
	<p>未来を担う子どもたちへの環境教育の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境をテーマとした課外学習などを通じた学校や家庭でのエコ教育の実践の促進</li> </ul>	道、市町村、民間

主な取組		実施主体
多面的機能を有する 森林の循環利用の促進	十勝の豊かな森林づくりの取組 ・地域や企業などと連携した森林づくり活動の推進 ・森林認証の取得や地域材、木質バイオマスの活用の推進 ・地域材による製品の高付加価値化 ・公共建築物等における木材利用の推進	道、市町村、民間
	森林環境学習などの推進 ・教諭を対象とした森林環境教育に係る研修の推進 ・十勝流域森林・林業活性化センターとの連携による小中学校が森林環境教育を実施するための助成事業の推進	道、市町村、民間

#### 関連する主な基盤整備

##### 健全な森林の整備と保全の推進

- ・森林の整備・保全の推進
- ・路網の整備促進

##### 治山施設の整備

- ・治山施設や保安林の整備促進

##### 自然豊かな水辺環境の整備・保全

- ・環境に配慮した河川・砂防などの整備促進